

『第 13 回軽井沢がん哲学外来カフェ』

～ 心が通じ合う人と出会う ～

新渡戸稲造記念センター長/ 順天堂大学 名誉教授  
樋野 興 夫

遂に実現 !! 北九州初のがんカフェ

がん哲学外来北九州/メディカルカフェ

「あいむ・翔べ! (TOBE)・胡貲 (TODO)」  
代表 山口 新 衛

10月13日(土)。『第13回軽井沢がん哲学外来カフェ』(軽井沢南教会に於いて)に赴いた。大変、有意義な貴重なひと時であった。

第1回は、2017年10月17日に開催されている。軽井沢は、「内村鑑三(1861-1930)、新渡戸稲造(1862-1933)のゆかりの地」で、私にとっては特別な思いがある。

終了後は、皆様と「軽井沢恵みシャレー」、「星野遊学堂」、「石の教会」を訪問した。人生の良き思い出となった。企画された宮澤豊牧師ご夫妻のおもてなしと心遣いには、ただただ感謝である。

『「21世紀の軽井沢夏季がん哲学学校」～内村鑑三と新渡戸稲造の楕円形精神～』開設記念 公開シンポジウム(2017年7月17日)に参上したのが、鮮明に蘇って来た。

私は、講演『「21世紀の軽井沢夏季がん哲学学校」の現代的意義』の機会が与えられた。

新渡戸稲造は1918年に「軽井沢通俗夏季大学」の初代学長になった。若き日に学んだ「内村鑑三と新渡戸稲造の楕円形精神」は「交感神経&副交感神経、がん遺伝子&がん抑制遺伝子」の如く「異なる性質の協働」である。『教養ある人間とは、「自分のあらゆる行動に普遍性の烙印を押すこと」であり『生活環境や言葉が違って心も通えば友達であり心が通じ合う人と出会うことが人間の一番の楽しみである』(新渡戸稲造)を実感する時でもあった。

まさに、『「はしるべき行程」と「見据える勇氣」、そして世界の動向を見極めつつ、高らかに理念を語る「小国の大人物」出でよ!』の学習である。

1本の映画・1冊の本が私の夢に火をつけた。がん哲学外来の創設者樋野興夫先生の活動を描いたドキュメンタリー映画「がんと生きる 言葉の処方箋」と樋野興夫先生の著書「明日この世を去るとしても、今日の花に水をあげなさい」という本がそれだ。

2人に1人ががんになり、がん患者の3人に1人が亡くなる時代、ご多分に漏れず76歳の私も二つのがんと闘うことになった。肺がんと前立腺がんだ。〈がん＝すぐに死を迎える〉というイメージは以前に比べると薄らいできたような気がするが本人や家族にとってはまだまだ悩ましい病であることは間違いない。

最近では、がん患者の多くがネットで情報を検索しまくるといわれているが、パソコンができなかった私はたくさんの本を買い漁った。その数、500余冊。その中で特に感銘を受けたのが樋野先生の著書だった。

まずは「言葉の処方箋」の上映を企画。3月を予定していたがコロナ禍で延期、7月の上映を機にがんカフェ設立を宣言し、9月19日に念願の第1回目を開催することができた。やはり、がん患者同士、がん患者の家族が対話する場の必要性を強く感じた。参加者の喜びの声を背に北九州でのがんカフェを大切に育てていきたい。小さな花に水をあげ続けようと思う!!



**聖書とがん**  
「内なる敵」と「内なる人」

**出版記念シンポジウム & 講演会**

がん哲学提唱者・樋野興夫氏(順天堂大学名誉教授)による講演と  
牧師たちによるシンポジウムのひとときを  
ぜひお楽しみください

10月20日発売  
定価 1,600円(税別)

10月31日(土) 13時30分～15時30分  
会場 日本キリスト教団深沢教会  
(世田谷区駒沢5-13-12)

主催 がん哲学外来メディカルカフェ in 世田谷深沢  
目白がん哲学外来カフェ2  
後援 一般社団法人がん哲学外来  
申し込み・問い合わせ先  
丹阿彌彦 03-3793-4480 kuny.nice@outlook.jp  
森 純子 03-3971-9873 mejorigotafe@yahoo.co.jp

定員50名

＜編集後記＞  
◇「軽井沢恵みシャレー」が今月でクローズするということで樋野先生の講演後に訪問した。出版記念会(2019/6/15)を開いた日のことが鮮明に思い出されてきた。  
◇北九州カフェの山口新衛様から原稿が頂けて良かった。またひとつ貴重なカフェの灯が点った。(星野昭江)